

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	教育学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 実践的教育科目群の質を検証するために、教員相互の情報交換の場を設け、授業の質を確保する。	→「履修者数規模別の授業科目数」「少人数授業の授業形態の調査」「マルチメディア教室の稼働率」「演習・実習科目担当者会議における検討状況」	B	B	B	B	A
2. 実習科目等における学生へのガイダンスおよび事前事後指導のありかたの検討と改善を図る。	→「実習委員会の検討状況」「実習生に対する外部評価内容」	B	B	B	A	A
3. 教員・保育士養成課程の充実と改善のために、教員・保育士養成課程担当者会を月1回開催する。	→「幼稚園教員・保育士養成課程担当者会の検討状況」「小学校教員養成課程担当者会の検討状況」	B	B	B	B	B
4. 学生による授業評価を積極的かつ効果的に活用する。	→「学生による授業評価に基づいた授業改善の方策の作成と公表の実施率」	B	B	B	B	B
5. 授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修会を年2回実施する。	→「FD委員会、研修会での検討状況」	B	B	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 実践教育科目群については、学生の主体的参加を促し、授業の質を保証するために、少人数クラス(1クラス50名以下)での授業を全体の85%以上開講している。また授業運営に関する科目担当者会を月に1度のペースで開催し、情報交換も行っている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度入学生より履修単位数上限を各学期24単位、年間取得可能単位数を48単位と下方修正したことにより、学生の履修過多を避けることができ各科目に対する教育の質を担保できるようになってきた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 実習委員会において、実践教育科目群の問題点を抽出し、改善策を検討する。</p> <p>その他</p>	☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部ホームページに全開講科目のシラバスを掲載すると共に、実習科目については、実習の目的等を記した学部独自の実習要綱を作成し、学生に配布して丁寧なガイダンスを実施している。また、実習の事前・事後指導については、各実習で指導内容が重複している部分を調整し、シラバスの内容と齟齬がないように月に1回開催される担当者会及び実習委員会で、授業内容を協議し、授業の質の向上を図っている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 大学を離れた学校・園及び施設での実習であるということを鑑み、事前・事後指導の充実に関心をもち外部機関より良好な評価を得ることが多い。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 事前・事後指導の内容が教職等専門職につくための確かな学力・能力となるように学習の定着をめざすステップアップ講座等の開催を充実させる。</p> <p>その他</p>	☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 授業内容及び方法の改善を図るため、不定期であるが幼稚園教員・保育士養成課程と小学校教員養成課程の科目担当者会を開催し、検討した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 年に1度、幼稚園教員・保育士養成課程担当者会及び小学校教員養成課程担当者会ともに開催されたが、いずれも授業内容及び方法の改善を図るといレベルには達しなかった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か それぞれの担当者会の定期開催をめざし授業内容及び方法の改善を計画的に進めていくべきである。</p> <p>その他</p>	☆
目標4	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部全体で実施している学生による授業評価と共に、実習関連科目については、受講者アンケート調査を行い、結果を担当者会で検討している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 実習関連科目については、担当者会で受講者アンケートの結果分析を行い、授業改善に活かすようにしているが、他の科目については個々の教員任せになってしまっている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部全体で実施している学生による授業評価について、今後FD等を活用しながら結果について検証していく必要がある。</p> <p>その他</p>	☆

目標5	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 年に2回、各学期末に授業内容や方法の改善を図ることを主な目的として、教員間の情報交換と研修の場を設けており、これをFDの一環として位置づけている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		2013年度FD研究として、春学期は「大学教育の方向性と教員養成について」、秋学期は「私立大学における教員養成教育について—政府・文科省の政策動向を見すえて」のそれぞれのテーマについて学部教員で研修を深めることができた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		FD研究を受けて、今後はさらに小グループに分かれて授業内容及び方法の改善について、検討していく必要がある。	☆
		その他	
			☆
備考			☆